よき人生とよき社会の実現を重ね合わせて

学 長　森　下　宏　美

新入生のみなさん、北海学園大学へのご入学、おめでとうございます。教職員一同、心より歓迎いたします。本日、新たな可能性に充ちたみなさんを、本学にお迎えすることができましたことは、私たち教職員にとって何よりの喜びとするところです。これからみなさんは、北海学園大学の学生として 4年間という時間を過ごします。わたくしは、みなさん一人一人が、その 4年間を、自らのよき人生を築くための有意義な時間としてほしいと願っています。

北海学園大学は、前身である北海短期大学の創立から数えて、今年で 74年目を迎えます。さらに辿れば、その歴史は、今から 138年前、1885年に設立された北海英語学校にまで遡ることができます。本学は、北海道の地で高度な教育を実践すべく奮闘してきた先人たちの意志を受け継ぎ、「開拓者精神」そして「自立と自律」とを建学の精神として掲げ、70有余年にわたって北海道における高等教育を担ってきました。卒業生は 9万人以上に及び、その活躍の場は各界に広がっています。文字どおり北海道に根ざした大学として、地域社会の担い手を数多く輩出してきた歴史と実績に、私たちは大きな誇りを持っています。それと同時に、地球温暖化、人口減少、核戦争の脅威、パンデミックなど、文明の危機ともいえる事態に直面する今日において、持続可能な地域社会を作り上げていくために本学が果たすべき新たな責務を感じています。

先ほどわたくしは、みなさん一人一人が、本学での 4年間を、自らのよき人生を築くための時間として過ごしてほしいと述べました。わたしは常日頃から学生に対し、「新しい何かができるようになることに積極的になろう」と呼びかけています。大学には、それを促すきっかけがたくさんあります。大学の内外におけるさまざまな人との交流や経験、そして何よりも学問との出会いがあります。それらが開いてくれる新しい世界に積極的に飛び込み、自らの成長の機会にしていただきたいと思います。

みなさんはそれぞれに、こうありたいと欲する自分自身の人生を想い描いていると思います。それはまだ漠然としたものかもしれません。「自分がやりたいことは何なのか、まだよく分からないが、この 4年間でそれを見つけよう」と考えている方がほとんどだと思います。

そこで大切なことがあります。それは、自分のことにだけ目を向けていても、人生の目標や生きがいを見つけることはできない、こうなりたい自分というものを見つけることはできない、ということです。私たちの人生は、家族や友人同士はもちろんのこと、名前も顔も知らない、見も知らぬ人たちとの間での、助けたり助けられたりという関係の中で営まれています。日々の衣食住や健康維持のためのニーズがどのようにして満たされているか、映画や文学や芸術やスポーツから、あるいは人々の何気ない言葉や生き様そのものから、どれだけの感動や勇気や癒しを得ているか、それらのことを想像すれば、一人一人の人生は、互いの助力を得てこそ成り立っているのだということを理解できるでしょう。コロナ禍のもとで過ごしたこの 3 年は、そのことを強く再認識させてくれました。

互いに助け合い、時に対立もする関係にある人々は、他人であると同時に「私たち」でもあります。他人でもあり「私たち」でもある人々の存在に目を向けることなくして、人生の目標も、生きがいも、また、こうなりたい自分も見つけることはできません。そして、「私たち」として生きているたくさんの人たちとのつながりを、より広く豊かに想い描くことができればできるほど、人生の可能性もまた広がっていきます。

この4年間を通じて、みなさんはたくさんの人と出会い、これまでになかった多様な経験を共にするでしょう。その中から、生涯にわたる交友関係も生まれ、新しい可能性に挑戦する勇気を与えてくれるでしょう。

そして、学問との出会いです。大学での学びの中心は学問です。学問とは、すでに知られている事実や知識を身につける学習とは異なり、自分が立てた問いについて、自分の頭で考え、自分なりの答えを見つける研究活動です。しかし「自分なりの答えを見つける」といっても、それは、決して独りよがりの答え、すなわち偏見であってはなりません。学問研究において大事なことは、相手が納得する理由や根拠を示しながら、相手の理解を得られるように自分の見解を主張する、そのような態度です。このような学問研究を通じて私たちは、個人的で直接的な体験の枠を超えて、人間や世界をより広く深く知り、その知識を共有することができます。学問には、偏見を克服し、新しい可能性を切り拓く力があります。学問は特別な人だけがやるものではありません。みなさんには、是非、学問をも生涯の友にしてほしいと思っています。

これまで、よき人生を送るためには、「私たち」として共に生きている人々へのまなざしが必要だと述べてきました。「私たち」の生活は、さまざまな仕組みや制度を通じて、互いの助力を得ることによって成り立っています。その営みを社会と呼ぶならば、一人一人のよき人生は、「私たち」のよき生活の実現、言い換えれば、よき社会の実現と重なり合うものだと言うことができます。みなさんには、そのような人生を歩んでほしいと強く願っています。

最後に、あらためて本学の建学の精神について、その意味するところを述べたいと思います。

まず「開拓者精神」です。これは、先ほど触れた文明の危機ともいえる事態に直面する中で、さまざまな困難を解決し、「私たち」のよき生活、よき社会の実現のために、たゆまぬ努力を払う精神と理解します。次に「自立と自律」です。「自ら立つ」という意味の自立と「自ら律する」という意味の「自律」、これらは決して、一人で生き抜くための資質として掲げられているのではありません。よき社会の実現は、たった一人の努力で達成されるものではありません。そこには、「私たち」の協同が必要です。その協同の中に埋没するのではなく、自ら主体的にかかわっていくことのできる資質、それが、「自立と自律」の精神です。

このような建学の精神のもとに行われる本学での教育と学びが、よき社会の実現につながると同時に、みなさんのよき人生への導きとなるならば、それに勝る喜びはありません。このことをお伝え申し上げ、学長としての式辞といたします。